令和４年度学校評価について

本年度の 重点目標	１　個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上 ２　自立と社会参加を促す教育活動の推進 ３　「笑顔」のある安心・安全な学校づくり ４　関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進 ５　センター的機能の充実 ６　仕事の効率化、勤務時間の適正化を図る		
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
小学部	１　離れた場所で学習する児童同士が、ともに学び合える環境をつくります。 ２　体験的な活動や人との関わりを通して、豊かな心を育てます。	１　同時双方向型通信や協働学習用アプリケーションを活用した学習をさらに推進します。 ２　外部資源も積極的に活用しながら、より多くの経験ができるような学習を計画します。	１　書画カメラやビデオ会議システムなどの機器を教室に常設したことで、家庭や他施設とのオンライン授業がよりスムーズに実施できるようになりました。鮮明な映像や、複数人の声を上手に拾うなどの利点から、集団での協働学習にも取り組みやすくなりました。 ２　石ヶ瀬小学校４年生児童と、両校の休憩時間にオンライン交流を行いました。これまでに計６回、各 15 分程度の交流を実施し、クラスメイトのような自然な関わりの中で仲良くなることができました。今後も継続して実施し、相互理解の深まりを期待したいです。
中学部	基礎的・基本的な学力の習得を確実に行うとともに、集団で活動する中で、自らの課題に気付き、個性の伸長を図り、他者とよりよい人間関係を築く力を育みます。	１　生徒の実態や学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。 ２　ＩＣＴ機器を活用し、校内教育、ＢＳ学級、施設内教育学級で同時双方向型通信を使った授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。 ３　集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験を、多くの生徒ができるよう支援します。	１　生徒の入院予定や学習状況を把握し、個別学習と集団学習を実態に合わせて組み合わせ、生徒の実態に応じた学習しやすい環境づくりをすることができました。 ２　部集会や道徳の授業でＩＣＴ機器を活用するなど、集団で学び合う環境と対話的、協働的な活動の充実に努めることができました。 ３　一人一人の生徒に寄り添い、気持ちを受け止めたり短期的な目標を設定したりすることで、生徒の主体的な発言や学び合いの姿勢の育成につなげることができました。
高等部	１　各教育課程の指導内容及び指導方法について検証し、改善を進めます。 ２　自己実現を目指し、集団の一員として生きる力を身に付けます。	１　生徒一人一人の実態を的確に把握し、授業力の向上及び適切な指導が実施できるよう、高等部職員全体で共通認識をもち、研修に努めます。 ２　社会へ出ることを見据え、挨拶や言葉遣い、他の生徒への思いやりなど、人との関わり方を学べるように学校生活の中で支援・指導します。 ３　集団での活動場面において、実態に応じた役割分担や他の生徒との協働を意識し、生徒が達成感や成就感を味わえるように指導します。	１　各会議で生徒一人一人の情報交換の場を設け、指導についての共通理解を進め、指導に努めました。 ２　始業、終業時の挨拶を姿勢を正して必ず行うこと、グループ活動を取り入れ、活発に話し合う場面を作って、生徒相互の理解を進めました。 ３　活動のなかで自己の得意、不得意を生かし、協力し合いながら活動を進めていけるよう支援しました。行事や活動の後は事後学習を行って、事前の準備や当日の様子を振り返り、頑張ったこと、できるようになったことを振り返る場面を取り入れました。
施設内教育 名大 藤田 中京	児童生徒が安心して学べるように、保護者及び医療機関との連携を保ち、個に応じた指導の工夫と充実に努めます。	１　保護者、病院、前籍校等と協力し合って学習環境を整え、児童生徒の実態に合わせた学習保障に努めます。 ２　児童生徒の進路の参考とするため、病棟に入院している高校生の学習状況について情報を収集し、進路指導に活用していきます。	１　保護者、病棟の要望に、可能な限り柔軟に対応することができました。また、前籍校と密に連絡を取り、退院後の対応等も相談をしました。 ２　進路指導部、医教連携コーディネーターと連携して、幅広く情報収集できましたが、入試時の対応と入学してからの対応に差がある学校も多く、今後も注視していきたいです。
訪問教育	１　児童生徒の思いを受けとめ、一人一人の実態に応じた授業の実施に努めます。 ２　病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。	１　児童生徒の特性や学習の状況、病状を的確に実態把握して授業を実施します。 ２　電話やメール、また連絡ノート等を活用し、病院等の関係機関との情報交換を積極的に行います。	１　担当者間で、児童生徒の支援目標や授業内容を細かく検討することで、児童生徒の実態に応じた授業改善を続けてきました。そのことで、児童生徒が活動的に授業に参加できるようになったこともありましたが、まだ十分に児童生徒の意欲を引き出すことができなかったこともあったので、病棟等と連携した児童生徒の心理的な状態に応じた授業作りを引き続き模索していくことが課題です。 ２　感染症が発生した場合や、児童生徒の心理的・身体的な状態に変化があった場合には、素早く病院等の関係機関と連絡を取り合い対応することで、より良い関係作りを進めることができました。今後は、ICT 機器を活用した連携など、連携の手段・方法を検討していくことが課題です。
総務部	１　魅力ある教育活動の情報発信に努めます。 ２　保護者にとってより有意義になるようにＰＴＡ研修	１　本校、施設内、訪問教育と連携を図り、学校だより・校内掲示等を利用して、活動や取組について具体的に発信していきます。 ２　保護者のニーズと照らし合わせながら、Ｐ	１　学校だより・校内掲示では、学校生活の様子が伝わるように写真やレイアウト、コメントなどを工夫しました。今年度は２年ぶりに運動会や遠足などの学校行事が行われ、文化祭も保護者の前で発表することができました。学校だよりや校内掲示を通して、児童生徒の生き生きした様子を知らせることができました。 ２　第Ｉ回のＰＴＡ研修会「進学や就職に向けて」では、卒業生や就

	会やＰＴＡ活動を進めます。	ＴＡ研修会やＰＴＡ活動の内容を企画・検討していきます。	業・生活支援センターの方の講演を聞き、質疑応答も活発にされました。第２回のＰＴＡ研修会「印鑑ケース作り」やＰＴＡ活動の「プラ板キーホルダー作り」の制作活動では、保護者同士の会話も弾み、リフレッシュや親睦を図ることができました。今後も保護者のニーズと照らし合わせながら、活動の充実を図っていきます。
教務部	ＩＣＴ機器を活用し、教育効果を高める授業の実践を行います。	１　協働学習用アプリケーションを積極的に活用し、集団で学び合う機会の充実に努めます。 ２　オンライン授業の取組を振り返り、授業実践や評価方法などを分析して今後の授業に役立てます。	部別研修や夏季研修を通して、授業実践やＩＣＴの活用について情報共有をしました。協働学習用アプリやＩＣＴ機器を活用し、子どもたちの学習の意欲の向上や学習保障の充実につなげることができました。評価基準の見直しやＩＣＴ機器の研修を適宜行い、更に学習効果を高めていきたいです。
自立活動	児童生徒が自己の自立について考えると同時に、自立に必要な力を教師とともに考え、主体的にその力を身に付けることができるよう支援します。	個別の教育支援計画を基に、個々の目標や活動内容が実態に適しているかを児童生徒の心身の状態を踏まえて検討し、自己理解を深めたり、自己管理の力がついたりするような活動内容の工夫を行います。	職員全員で児童生徒一人一人の目標を確認するようにし、状況に応じて担当者で相談や情報共有を積極的に行うことで、児童生徒の目標に対する支援を多角的に見直しながら進めることができました。今後は、児童生徒の取組に向かう姿勢に変化があるかどうか、ワークシートや活動の様子などを丁寧に分析し、児童生徒の自立につなげていきたいです。また、職員同士での連携を図る機会を定期的にもち、さまざまなアプローチ方法を考え、児童生徒自身が成果を実感したり課題を考えたりすることができるよう進めていきます。
生徒指導部	児童生徒が安心・安全に関する様々な課題に関心をもち、主体的に安心・安全な生活の実現を目指すことができるような学校づくりに努めます。	１　避難訓練や定期的にシェイクアウト訓練を実施し、児童生徒の防災への意識を高めていきます。 ２　不審者対応訓練を実施し、緊急対応マニュアルの見直しをします。 ３　毎週、各部会で児童生徒の情報交換を行うとともに、年２回、児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。	１　今年度、避難も含めた訓練を二回、シェイクアウトのみの訓練（日時非公開実施含む）を二回実施し、防災における危機管理意識の向上を図りました。継続的に訓練を実施したことで自ら身を守る習慣が少しずつ身に付いています。また、地震発生時・火災発生時のマニュアルの見直しに取り組みました。児童生徒及び職員がより主体的に自らの命を守る行動が取れるよう今後も取り組んでいきます。 ２　職員の危機管理意識の向上に伴い、緊急対応マニュアルの見直しと効果的な不審者対応訓練の在り方を職員全体で検討しました。次年度以降はより実践的な訓練を現職研修に取り入れ、子どもたちの安全を支えられるよう取り組んでいきます。 ３　「心のアンケート」の分析結果を職員間で共有することで、いじめの早期発見に努めています。また、人権週間では各部で講話を実施しました。今後も子どもたちが自身や友達、家族等に対し、思いやりをもって接することができるよういじめの防止に取り組んでいきます。
保健体育部	教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます。	１　児童生徒の健康状態の把握や事故防止に努め、児童生徒個々に応じた緊急時の対策等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。 ２　医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係する機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。 ３　日常の健康と安全に対する意識を高め、家庭や病棟と連携を取り、感染症対策や食習慣の重要性を周知していきます。	１　随時校内巡視等を行い危険箇所の早期発見に努め、危険性のあるときは職員に周知し対応するなど、安全な教育環境の整備に努めました。ヒヤリ・ハット案件は昨年度より少なくなりました。 ２　医療的ケア、食物アレルギーについては、各部会や委員会等で、安全を最優先した取組となるよう検討し、その情報を全校体制で共有しました。 ３　新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの情報等を迅速に文書やメールで保護者や職員に伝えることで、二次的な感染の予防に努めました。給食については、給食前健康チェックを習慣化することで、安全、衛生に留意した給食指導を行うことができました。
進路指導部	児童生徒の実態と児童生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。	１　キャリア教育ノートの活用やキャリアパスポートの系統的な運用等、キャリア教育の充実を図ります。 ２　学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施し、情報の提供や進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。 ３　希望する進路先・居住地関係機関との連携を図り、情報提供することで児童生徒への理解を深めていただくよう努めます。	１　キャリア教育ノートの活用を促すために「キャリアの日」を設定し、系統的な運用を促しました。年間を通しキャリアパスポートの作成に取り組み、作成することができました。 ２　中学部では、令和５年度入試からの受検制度改革についての情報提供等を、生徒・保護者ともに進路説明会等で行いました。また、進路懇談、進路カンファレンスを設定し、進路決定の支援を行いました。 ３　希望進路先について事前相談を行い、情報共有や実態に合わせた配慮の依頼をしました。また、企業や施設への見学、講義を依頼し、双方が学ぶ機会を設定しました。

教育支援部	児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実を図ります。各関係機関との情報の共有化、連携の充実を図り、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。	1　夏の研修会を計画、実施し、適切な支援につながる教職員の資質向上を図るとともに、研修の一部を地域の教育関係者に公開します。 2　スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと協力し、校内支援の充実を図ります。	1　夏季研修では、「オンラインを活用した授業実践」、「自立活動の実際」、「スクールカウンセラーの役割」等の研修会を実施しました。「オンラインを活用した授業実践」は、公開研修としたことで地域の先生方も参加してくださり、学びを共有することができました。 2　スクールカウンセラーへの相談方法を提示したり、SC だよりを発行したりする等、支援に役立つ体制づくりを進めました。 3　地域の小中学校への支援指導検討会や各種研修会への協力等、関係機関と連携に努めました。
教育情報部	ＧＩＧＡスクール構想によるＩＣＴの環境整備を活用し、これまでの実践とＩＣＴを活用した授業への取り組みを学校全体で進め、児童生徒の学ぶ力、教師の指導力を最大限に引き出す取り組みを進めます。	1　コラボノートなどの教育系クラウドの環境を整え、本校や施設内教育、訪問教育で教育を受ける児童生徒への学びの保証ができるようにします。 2　ＩＣＴ活用力の向上を図るため、マニュアルや設定動画を作成し、職員のオンラインアプリ等のスキルが向上するように環境を整えます。 3　校内ネットワークの整備や運用を行い、職員や児童生徒がより快適に学習に取り組める環境を目指します。	1　本年度も継続してコラボノートなどの教育系クラウドの活用を職員に促し、家庭からオンラインでつなぐ児童生徒と本校で学習する児童生徒がより良い環境で一緒に学習を行うことができるよう努めました。施設でもコラボノートの活用が少しずつ進んできています。 2　職員の情報スキル向上のために、マニュアルをいろいろと作成し、いつでも見られるように整備しました。今後も職員にマニュアルの活用や情報共有を促していく必要があると思います。 3　体育館までの教育系ネットワーク拡張を整えました。また、本校の児童生徒や訪問教育でオンラインの授業を行う機会が増えてきていますが、大きな問題もなくネットワーク環境が現状整っていると思われます。次年度以降も継続して環境を整えていきます。
総合評価	1　個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか 児童生徒一人一台タブレットの整備を行い、コラボノートとタブレット端末の活用により、授業や交流、運動会、文化祭など様々な場面で協働的な学習が広がりました。新型コロナウイルス拡大により通学をすることが難しい児童生徒や、訪問教育で対面による病院での授業が難しい児童生徒に対してＩＣＴ機器を活用した同時双方向型通信を用いることで、学習の機会を確保することができました。同時双方向型通信を行っていく中で、職員のリモート授業の指導技術が向上しました。スクールカウンセラーによる職員への現職研修の実施、相談体制の整備を図り、児童生徒への支援力の向上に努めています。 2　自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか コロナ禍においても、同時双方向型通信を利用して交流校と積極的に交流を継続したり、感染症対策をして、校外学習や職場見学等の行事を実施したりすることで、学習の機会を確保することができました。 3　「笑顔」のある安全・安心な学校づくりができたか 保健体育部を中心に学校全体で感染症対策を徹底し、安全・安心な環境の確保に努めました。運動会、文化祭では、保護者による参観を２年ぶりに実施し、児童生徒の学習の成果を見ていただくことができました。コロナ禍においても明るく、前向きに児童生徒への働きかけを心がけ、笑顔を絶やさない学校を確保することができました。 4　関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか 新型コロナ感染症対策を始め、授業や行事などの情報を共有し、学校と保護者、各病院と連携をした教育活動の展開に努めました。施設内教育、訪問教育では、病院等の関係者と定期的に情報交換し、病棟との連携を図ることができました。 5　センター的機能の充実ができたか オンラインでの研修会を開催し、地域の医療関係者、病弱児が通う院内学級関係者への情報発信をすることができました。地域の小中学校への巡回相談や各種研修会への協力等、関係機関と連携した活動を行うとともに、情報交換に努めました。医教連携コーディーネーターを中心に、関係機関と高校生支援の連携を図り、適正な助言と指導に努めています。 6　仕事の効率化、勤務時間の適正化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか 職員の健康に留意し、定時退校日の設定、毎日の施錠時間の厳守など適正な勤務時間の確保に努めた。会議のペーパーレス化、職員連絡を Web で閲覧し、確認できるようにするなど業務の精選、効率化を考えた見直しに努めています。施設内教育や本校で同時双方向型通信を利用して会議を行ってきました。今後も集合、遠隔のハイブリッド方式で行うことで時間の有効活用や出張費用の削減等、業務の効率化を図っていきます。		